

両立支援とは？

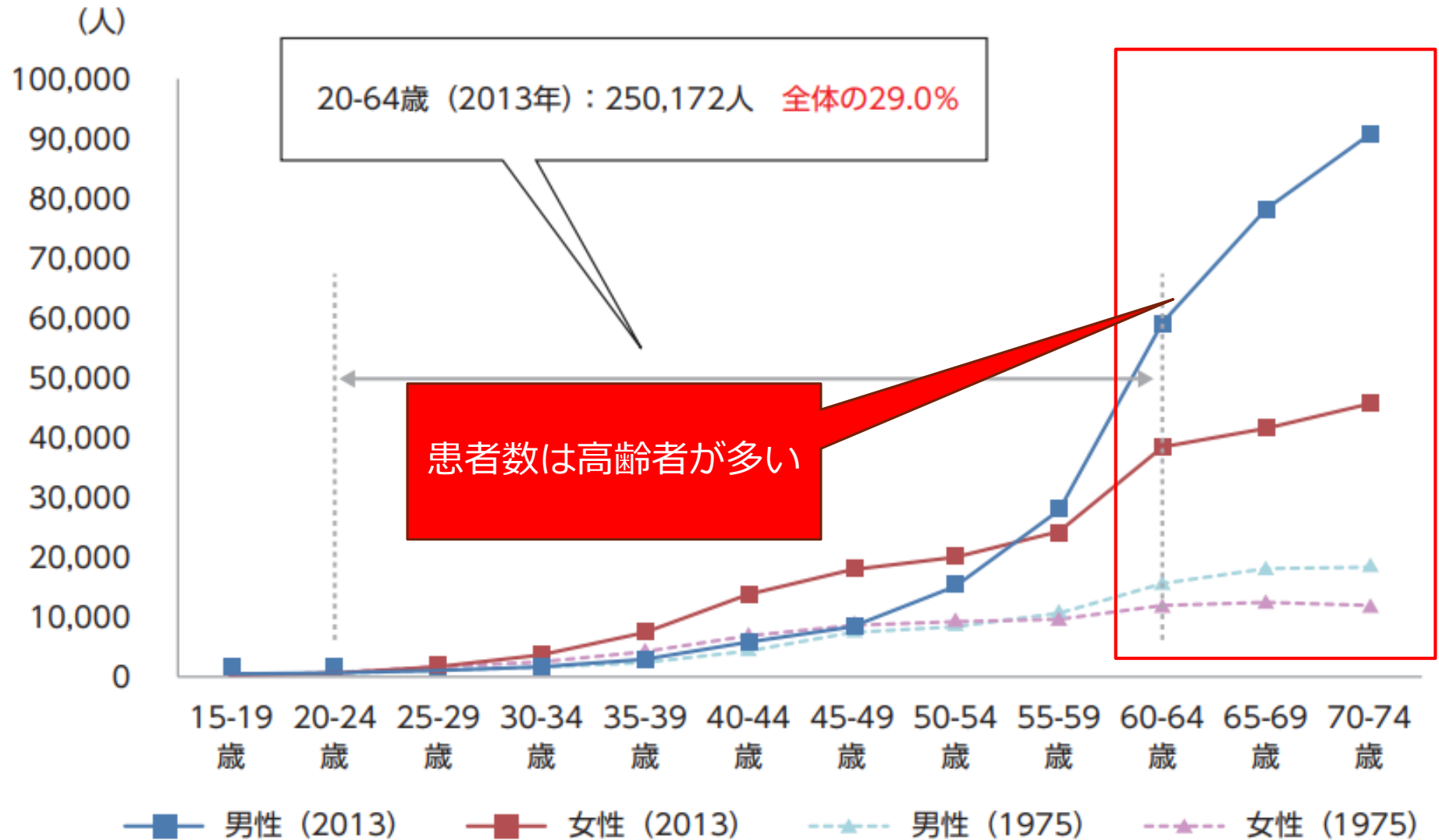
～治療をしながら よりよく生きるために～」

宮崎大学医学部附属病院
患者支援センター
鈴木 斎王



性別・年齢別がん罹患者数

国立がん研究センターがん情報サービス「がん登録・統計」をもとに厚生労働省が作成



がん患者さんを前に医師は何を考えているか？

■ 治癒が目指せるか？

■ YES

- 最適な治療は何か
- 治療の継続は可能か？
- 治癒率はどの程度か？

■ No

- 緩和ケアを勧めるか？



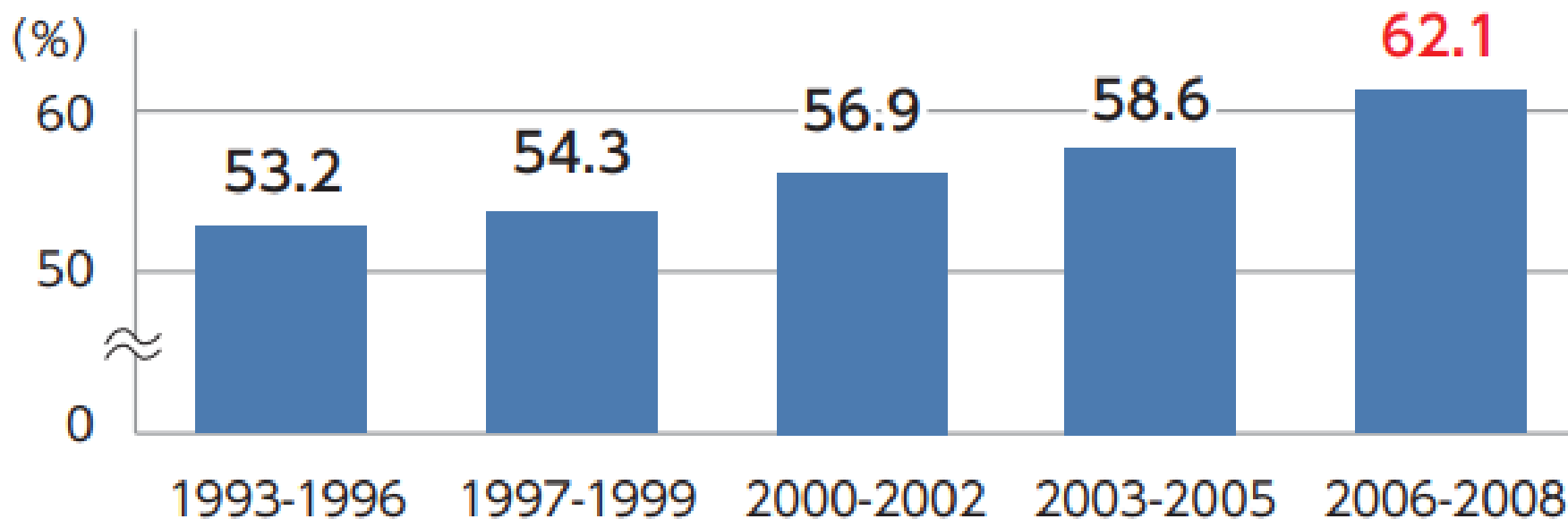
■ 治癒を目指すには

- 副作用は仕方がない
 - 感染症は乗り切れる
 - 吐いたり、髪の毛が抜けるのは諦める
- 年齢は関係ない
- PSも関係ないかも

目の前の患者さんの疾病を治すことが最優先

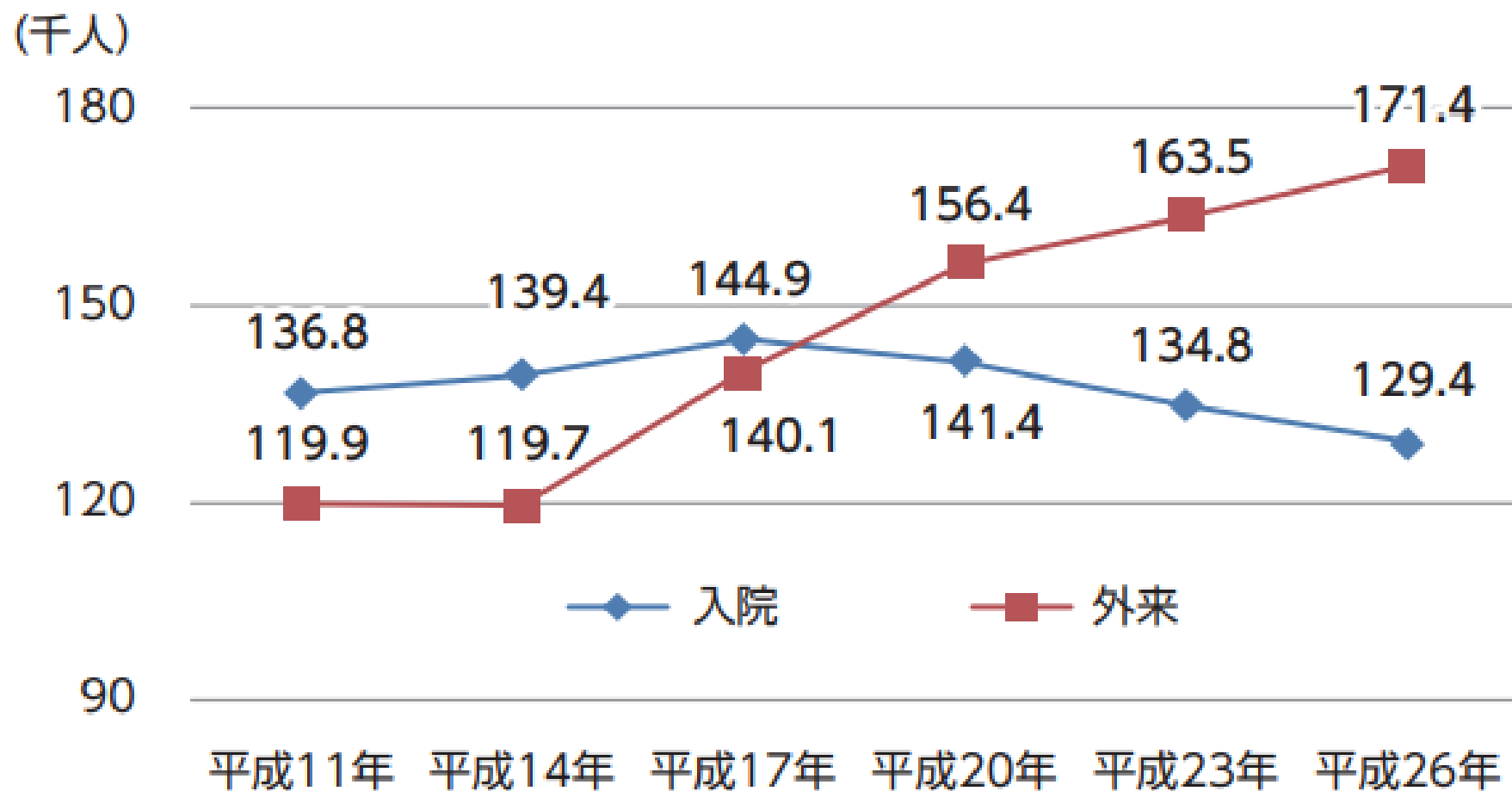
がんの5年相対生存率（全がん種）の推移

地域がん登録に基づき国立がん研究センターがん対策情報センターが集計したデータをもとに厚生労働省が作成



医療の進歩等によりがんは慢性疾患となってきた

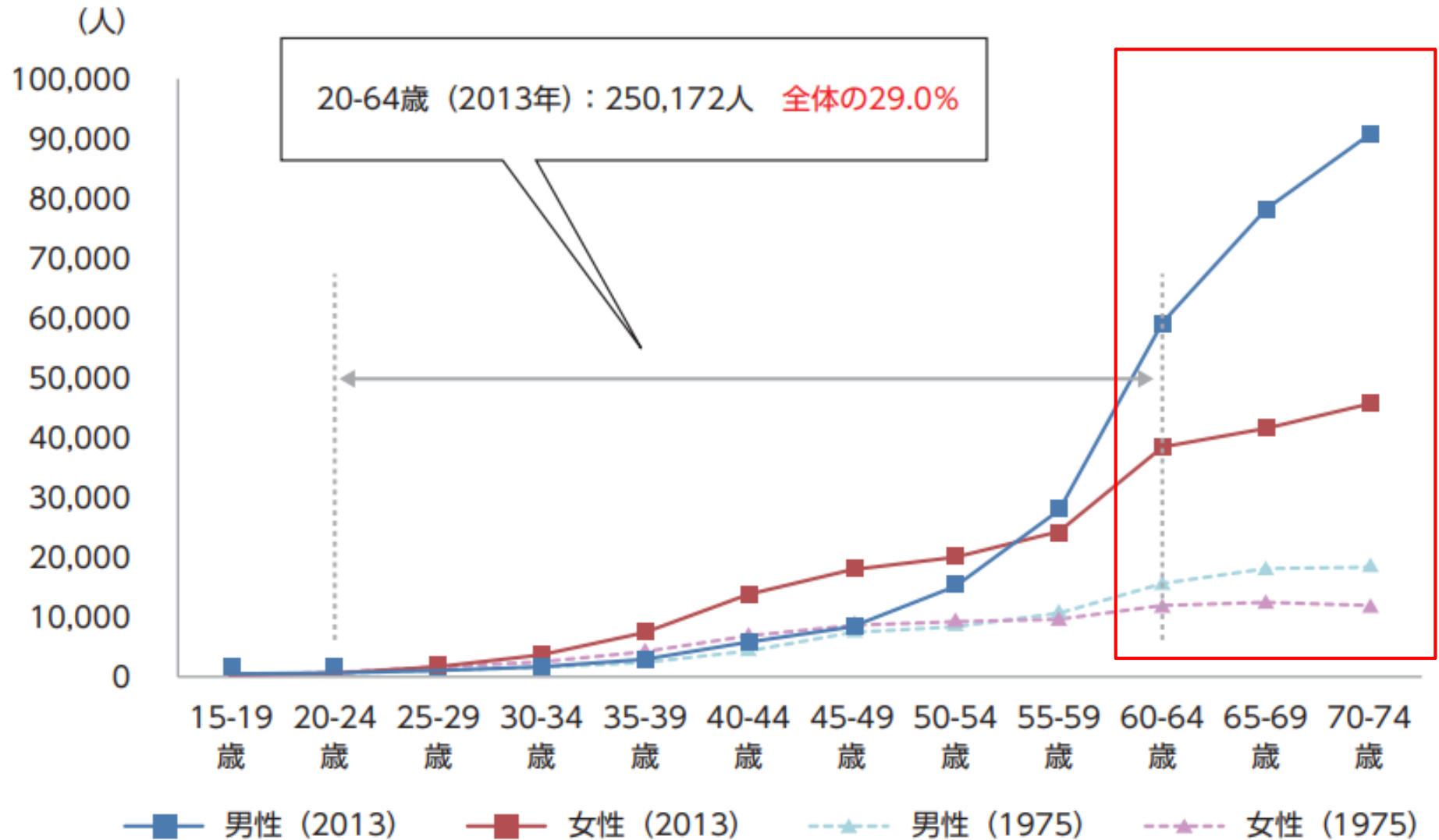
がん入院患者・外来患者の推移



外来で治療であれば、日常生活を営める可能性がある

性別・年齢別がん罹患者数

国立がん研究センターがん情報サービス「がん登録・統計」をもとに厚生労働省が作成



がん患者を前に会社は何を考えているか？

■ 今の仕事はこなせるか？

■ YES

- 労働時間は？
- 職場転換は？
- 休みの時間は？

■ No

- 新人を雇うべきか？



■ 業務をこなすには

- 残業は仕方がない
- 協力すれば乗り切れる
- 休ませたくない
- 新人教育は時間がかかる
 - 止めるなら早く退職してほしい

目の前の仕事をこなすことが最優先

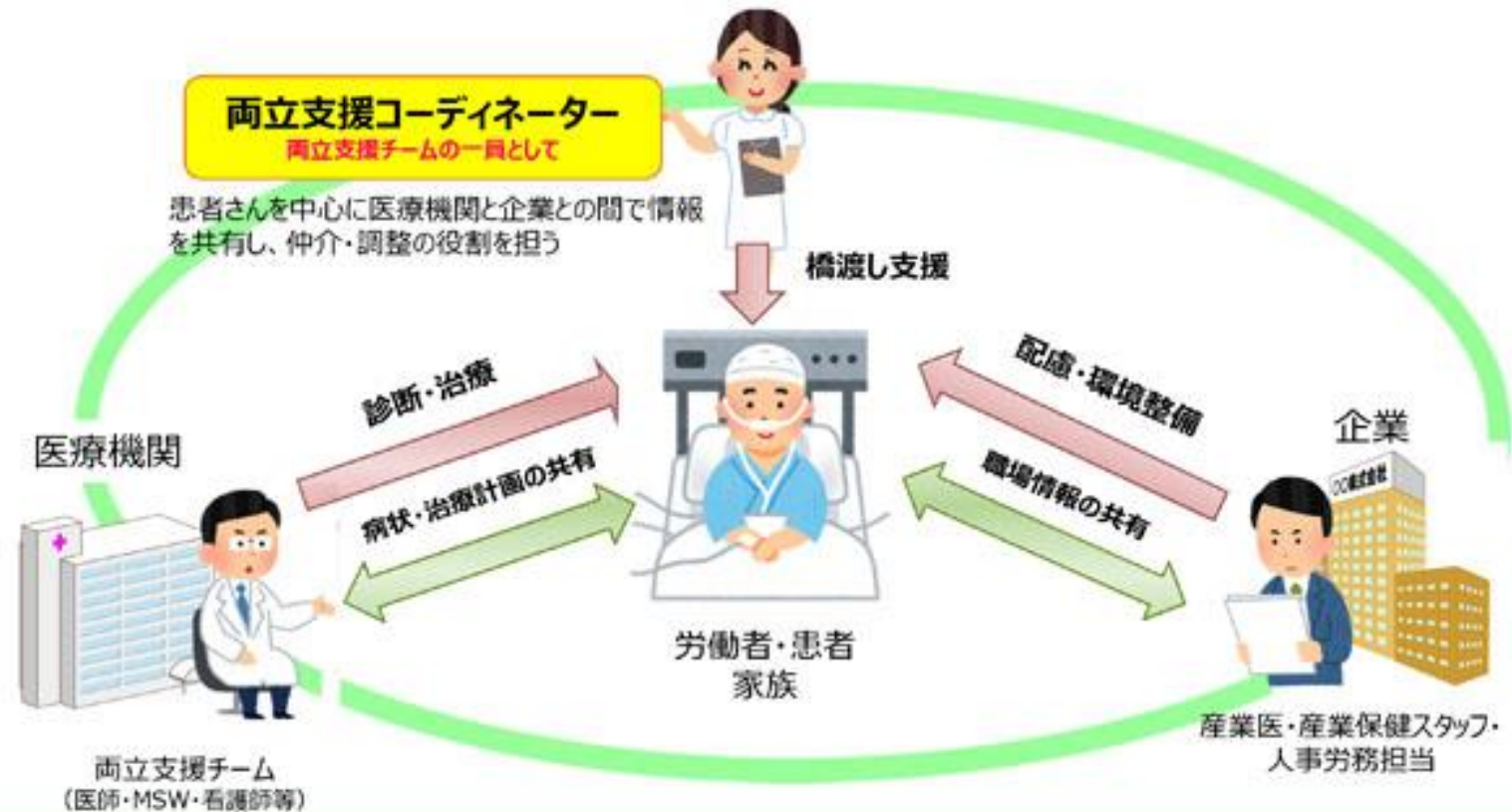


両立支援とは？

- ①仕事と家庭の両立支援
 - 育児・介護休業
- ②仕事と治療の両立支援
 - 治療を受けながらの仕事継続
- ③仕事と介護の両立支援

がん就労支援

治療と仕事の両立支援体制の確立

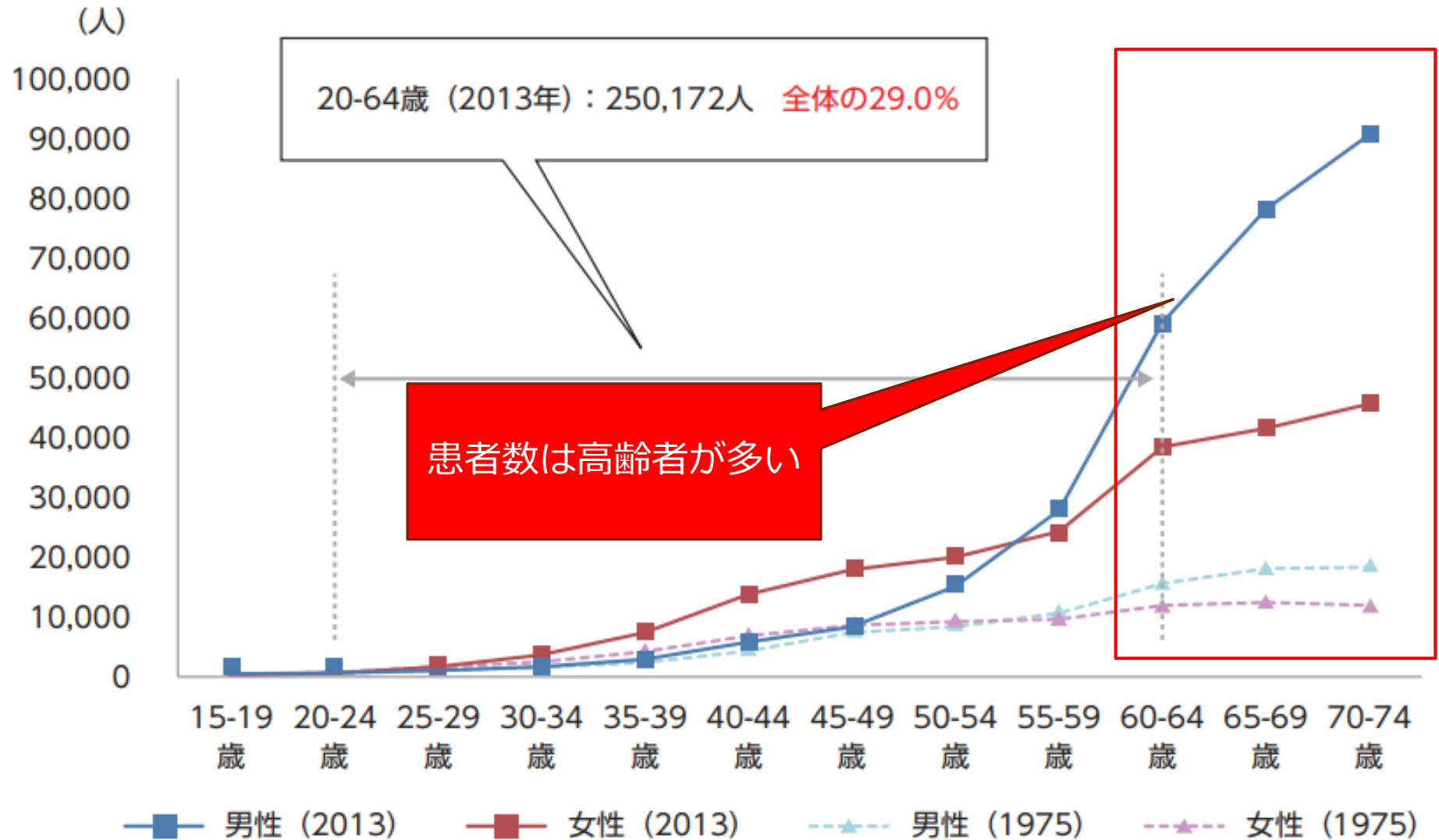


【目標】

職場復帰や治療と仕事の両立を希望する患者(労働者)さんの同意を得た上で、治療や業務等の状況に応じた必要な配慮内容やその見通しを整理して、本人に提供する「両立支援コーディネーター」の配置と養成

性別・年齢別がん罹患者数

国立がん研究センターがん情報サービス「がん登録・統計」をもとに厚生労働省が作成



がん患者を前に社会は何を考えているか？

➡ 退院して大丈夫？

- ➡ いつまで居られる？
- ➡ 寝てなくて大丈夫？
- ➡ 気をつけることは？
- ➡ 何かあったらスグに診てもらえる？



➡ 一緒に過ごすには

- ➡ 疲れないようにする
- ➡ 薬を間違いなく飲ませる
- ➡ スグに病院に連絡できる
- ➡ 家族についてきてもらう

どっち？

- ・ 気を使うことが多すぎて大変
- ・ 一緒に過ごせて楽しい

もうひとつの両立支援

- ④生活（社会活動）と治療の両立支援
 - 病院での生活
 - 外来通院で治療が可能？
 - 通院での生活
 - 自宅での安静は必要なのか？
 - 介護と生活の両立
 - 家族に余裕はあるのか？



両立相談（支援）の前提ポイント

- 活動を継続する意思があるか？
- 家族は協力できるのか？
- 周囲に「病気」であることをどの程度まで伝えるか？
- 近隣住民や会の参加者にどの程度の配慮があれば良いのか？

治療と社会活動の両立支援

- 治療を受けながらの社会活動・家庭生活
 - 入院生活の長期化による影響
 - 就労ができなくなる
 - ②仕事と治療の両立支援へ
 - 子育てができなくなる
 - 子育てサポート
 - 趣味や地域集会に参加できなくなる
 - 次の次のスライド



がん患者さんの子育てサポート

■ ファミリーサポートセンター

- 子を持つすべての家庭を対象に、厚生労働省が支援する事業の一つとして、市区町村が運営
- 各市区町村のセンターが仲介して相互援助をサポート

■ 緊急保育

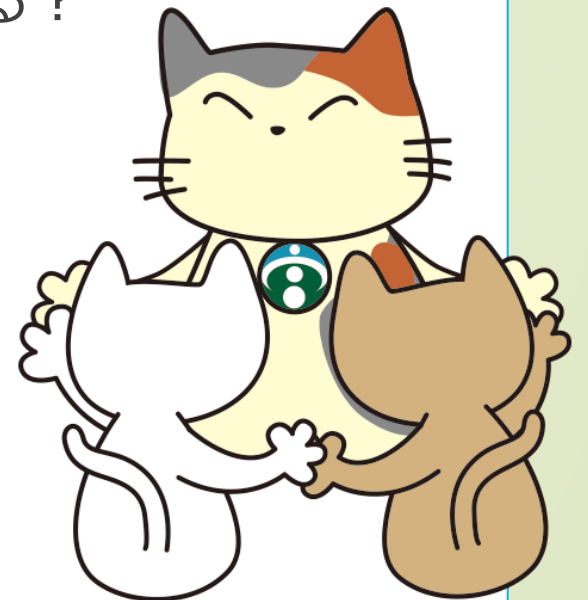
- 定員に空きのある緊急保育実施園で、保護者の病気などにより緊急に保育を必要とする子どもを一時的に預かる制度
- 保育園に入所可能な月（年）齢から小学校就学前まで
- 各市区町村に窓口

■ Hopeツリー

- チャイルド・ライフ・スペシャリストや臨床心理士、看護師、小児科医、医療ソーシャルワーカーで結成されたグループ

がん患者さんの趣味や社会活動

- 趣味や社会活動の多様性
 - 囲碁、将棋、老人クラブ・町内会など多彩である。
 - プライベートな相談相手として役立つ場合も多い
- ボランティア団体・活動が多い
 - 生産性（資産獲得）は無いので、白い目で見られる？
 - 賃金はもらえないが、参加費は無料か安い
 - 社会的意義は高いかも
 - ピア・サポーター（当事者による傾聴など）
- 支援制度がはっきりしない
 - 目的、構成者により支援制度が異なる？



健康の定義

健康とは、病気でないとか、弱っていないということではなく、肉体的にも、精神的にも、そして社会的にも、すべてが満たされた状態にあること

- ➡ 病気でないとか、弱っていないということではなく
 - ➡ 「病気を持った患者さん」が前提
 - ➡ 病気になると
 - ➡ 肉体的（身体的） → 医学的治療
 - ➡ 精神的 → カウンセリング
 - ➡ 社会的 → 両立支援
- にもダメージを受ける。 が維持・回復を手助けする